

FMアップルウェーブ 第121回放送番組審議会

開催日時	令和2年9月17日(土) 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク(弘前市土手町)
出席委員	委員長 佐藤 信隆、副委員長 鳴海 清彦 委員 佐藤 浩之、渋谷 拓弥、高村 智子、大西 晶子
会社側出席者	代表取締役社長:清藤 哲夫、専務取締役:一戸 勝美、取締役:南 直之進 放送部総括マネージャー:花田 由香子、チーフ:近藤 志織
議題	(1) 番組に対する意見要望 (2) 次回開催日について 12月15日(火)
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) 課題番組 『前向きハイスクール! けっばれ高校生』</p> <p>① コロナによって子どもたちが教育を受けられないというまさかの事態。高校生が高校生にインタビューをしていて、形式・構成もさまざま、学校ごとの雰囲気の特徴が出て良かった。中にはキャラクターが光る生徒もあり、聴いていてパワーをもらえる番組。</p> <p>② 閉塞感漂う中、ほほえましく聴ける番組。今の子どもたちの様子を知る事が出来て元氣になれる。各校の色がはっきり出ていた。コロナ禍の状況下で子どもたちがどう感じていたのか、感謝の言葉を述べていたが、心から出た言葉であると感じた。学校の教育環境などについても知る事が出来たので、コロナ禍でなくても聴きたい、継続して制作してほしい番組。</p> <p>③ この手の番組は同じような質問に対して同じような答えになり、単調になりがちだが、生徒やパーソナリティのインタビュアーが丁寧にこたえを引き出そうとしていて良かった。関係者以外の人が聴いて楽しいと思えるかは疑問。</p> <p>④ コロナに立ち向かうのは高校3年生だけではない。教員のコメントは教頭・校長など上の立場の方の声で、顧問や現場の先生の言葉が聴きたかった。運動部、文化部を交互にするなど、バランスよくピックアップするなどメリハリが欲しい。子どもたちにエールを贈りたい。</p> <p>⑤ 他のすべての高校の番組を聴いてみたくなった。放送部のアナウンスも素晴らしかった。高校生が「対戦相手がいることに感謝」という言葉を述べていたことに感心した。対外試合・大会などが無くなったからこそ部活動をやってきた意味を感じられたのではないかと思う。パーソナリティのアナウンスの中で、接頭語の「ご」の使い方が気になった(「ご紹介」か「紹介」か)。</p> <p>⑥ 学校や部活が異なっても、予め用意されたインタビューの答えがどうしても似通ってしまう。話し方や雰囲気は違えど中身がほぼ同じため、事前に準備したインタビューではなく、もっとアドリブの質問、そのインタビュー相手に合わせて掘り下げる質問が欲しかった。部活や生徒会などに参加している生徒が主だったが、そのような活動に参加していない生徒がこのコロナ禍の自粛でどう感じたのかも聴いてみたかった。</p> <p>【審議機関の答申または改善意見の公表】</p> <p>1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載</p>